

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502181		
法人名	株式会社グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテトタウン南の沢		
所在地	札幌市南区南沢1822-63		
自己評価作成日	平成25年9月5日	評価結果市町村受理日	平成25年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170502181-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170502181-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

札幌市郊外の自然豊かな住宅地に位置し、ラベンダー発祥の地としても有名で、近くの東海大学では、毎年ラベンダーコンサートがひらかれています。地域交流も活発で、正月の初詣から始めて、運動会、盆踊り、ラベンダー祭り、もいわ祭り、餅つき大会など、たくさんの行事が行われており、私たちもこれらの行事に参加させていただき、地域との交流を深めています。又、毎月、先生を招いて書道も行っており、利用者・職員も参加し、お互いの作品は写真と一緒に展示されています。お隣の南沢福祉会館では、毎月ふれあい交流会などが行われ、小さい子供たちやお年寄りなどの交流が生まれています。これらの交流の記録・日常生活の様子を、『ポテト新聞』として、家族の皆様にお送りし、家族の皆様との意思の疎通を図るようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑に囲まれた静かな住宅地に位置した1ユニットのグループホームである。バス停から1分と交通の便が良く、周囲には福祉会館や大学があり、車で10分程度の距離には大型スーパーや生協、ホームセンター等もあるなど住環境に恵まれている。地域とのつきあいが盛んで、町内会の運動会や近隣の大学が主催するラベンダーコンサートや隣接する福祉会館でのふれあい交流会等に参加しており、町内会の行事も多い。月2回福祉会館の子育てサロンにボランティアとして活動する職員がいるなど地域にも貢献している。職員の意識が高く毎月の月例会での意見交換が活発で、新しい行事を提案をしたり、利用者が理解しやすいように職員の写真の掲示方法を工夫するなど意欲的に行動している。管理者・職員は、ゆったりと優しい雰囲気で、言葉づかいもおだやかである。トイレ誘導ではプライバシーに配慮しながら、その場にあった言葉がけを工夫し、入浴時には、拒否がある利用者に対して、職員が皆で歌を歌ったり踊ったりしながら楽しい雰囲気の中で誘導するなど心温まる対応を行っている。季節を意識した食卓の工夫や、誕生日に全員で出かける外食、地下鉄やバスを利用した外出行事など楽しみごとが盛りだくさんである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月行われる月例会では理念を唱和し、職員間の意識付けを行い、地域に根ざしたケアを心がけるようにしています。	地域密着型サービスを踏まえた事業所独自の理念を居間や職員休憩室に掲げている。理念は月例会で確認し、介護計画にも反映されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	活発に活動をされている、町内会の方や、民生委員の方々との連絡を密にし、地域の行事に参加し交流を図っています。	町内会の運動会や近隣の大学が主催するラベンダーコンサート、隣接する福祉会館でのふれあい交流会等に参加しているほか、職員が月2回福祉会館の子育てサロンにボランティアとして活動し地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月行われている“ふれあい交流会”に参加し、地域の方々に名前や顔を覚えてもらい、認知についての理解を深めてもらっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月発行されている、『ポテト新聞』を、運営推進会議のメンバーにもお配りし、利用者の近況報告とともに、役に立つ催しや、講習などの情報を提供して頂いています。	2か月毎に運営推進会議が開催され、民生委員や地域の代表者、地域包括支援センター職員、家族等の参加を得て行事や地域交流、外部評価について活発に意見を交換している。議事録は参加者に配布しているが、今後は家族全員への配付も検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の入院等に際しては、市や区の担当者の方と相談するなど、連絡を取っています。	管理者が区の担当者を月1～2回訪問し情報を伝えている。また、困った時や分からないことがあるときは電話で相談している。市や区が主催する管理者会議にも毎回参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入社員などには特に、拘束について正しい理解が得られるよう、研修に参加してもらっています。夏場など、玄関は、施錠のない網戸で過ごせるようになっています。	身体拘束について日頃から話し合い、月例会でも取り上げている。身体拘束も含めた「グループホームの法律」を新入職員に渡し理解を深めている。また、身体拘束ゼロの手引きのパンフレットを事業所内に掲げている。玄関は日中は施錠せずセンサーで人の出入りを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が研修に参加し、テレビのニュースや新聞の報道等の虐待の情報は皆で共有し、意識を高めています。		

ポテトタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等に関しては講習会等に出席した職員を中心に学習しているが、具体的な実行例はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書をわかりやすく説明し、納得されるまで十分にお話しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方に毎月お送りしている、『変化と要点』や『ポテト新聞』で、利用者の状態をお知らせするとともに、家族からの要望、疑問などについては、よく話を聞き、納得頂ける改善が行えるよう、取り組んでいます。	毎月1回以上、それぞれの家族の訪問があり、その際に管理者が利用者の様子を伝え、意見や要望を聞いている。家族の希望に応じて、コーヒー等嗜好品の提供回数を増やすなど臨機応変に対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる、月例会等で、職員の要望、疑問などを聞き、職員全体で話し合う機会を設け、改善するように努めています。	職員は毎月の月例会で活発に意見交換している。また、日常でも管理者に行事の提案をしたり、利用者が理解しやすいような職員写真の掲示などを工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月例会や、ケアプラン作成時、内部研修などの場で、職員が意見を述べやすい場と雰囲気をつけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会にはなるべく多くの職員に参加してもらい、研修で学んだことをレポートとして提出してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実務者研修などに参加し、情報を共有したり、他のグループホームを訪問し、実地研修を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴、既往歴などは時間をかけてゆっくり信頼関係を築いて把握するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する段階で家族等に説明し、疑問点があれば納得いただくまでお話しし、実行するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居が決まった段階で、必要な支援と援助を見極め、サービスの質の向上につなげます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることはできるだけ自分でやってもらい、一人では難しいことは手助けする形で行うようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族との連携を密にし、通院や外出のサポートをお願いするなど、共に支えていく体勢を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域での行事やなじみのある場所に行ったり、親しい人との電話や、手紙のやりとりや会いに来て貰うなどを心掛け、フォローしています。	職員が利用者の希望を聞きながら、馴染みの大型店に車で買い物に行ったり、元住んでいた場所や店の前を車で通るなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの居室を行き来し、テレビを見たり、おしゃべりしたりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に電話などで近況報告してもらっています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を察し受け止め、利用者本位を最優先しています。	基本情報シートやセンター方式のアセスメントシートを作成しているが、利用開始後に情報の蓄積や更新を随時行うまでには至っていない。	前年に引き続き、利用開始後に得られた情報や変化を内容に追加記入して内容を充実させていくことを期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ本人の趣味、趣向に沿えるよう、生活歴、好み等の把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方や心身の状態を記録に残し、申し送りで伝え、現状の把握に努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が作った短期、長期の目標を、本人、家族、必要な関係者が話し合い、現状に即した介護計画が作成され、実行されています。	介護計画は3か月毎に見直しているが、評価シートの記載内容が次の計画への見直しに連動されていない。また、日々の介護記録も介護計画を意識した記録とはなっていない。	月例会では、各利用者の介護計画に関する意見について記録しているので、その内容を反映させながら、評価シートの記載方法を工夫していくことを期待したい。また、介護記録も介護計画を意識した記載方法となるように期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果等の介護の記録が月例会で報告検討され、情報の共有が図られ、その結果を基に次の介護計画が作成されます。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行に伴うセンサーなどの設置や、主治医などとのより密度の高い連携、火災、災害時に対応した、入所者個々の能力に応じた対策など、多くの課題に取り組んでいます。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お誕生会や、外食レクリエーションなどの際、お店の方の声かけや、さりげない心遣いなど、ご支援を頂き感謝しています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては、家族等の要望(治療や薬に関しての疑問など)を医師に伝え、出来るだけ同行して頂くようお願いしています。	協力医療機関の内科および皮膚科の医師による月2回の往診があり、受診内容を「主治医の診断・所見」に記録している。協力医療機関以外の受診は基本的に家族対応だが、必要に応じて職員が支援している。		

ポテタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態の変化を把握、記録し、往診時に主治医に伝え、適切な対応と処置をしてもらいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医が、24時間体制の医療機関の医師の為、入、退院はスムーズに出来ています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医、家族との話し合いに加え、介護職員も出来るだけ最後まで見守りたいと考え取り組んでいます。	重度化した場合でも、医療行為が伴わない範囲で、利用者・家族等の要望に応じて、医師と相談しながら可能な限り事業所で見守っていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には緊急マニュアルが用意されており、職場近くに住む職員が駆けつけるなどの体制になっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、避難訓練なども定期的に消防署の協力を得て行い、地域との訓練も行なわれています。	年2回、消防署や民生委員・近隣の福祉施設の方々の協力のもとに夜間想定避難訓練を行っている。定期的な救急救命訓練も行われ、災害用備品も準備されている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の言葉かけにも配慮し、誘導するように努めています。自立されている方は見守り、プライドを損ねないように排泄の確認をします。	利用者への呼びかけは苗字か名前に「さん」づけとし、職員はゆったり、おだやかに話しかけている。個人の記録類は1階の記録スペースや2階の事務所で安全に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の好みの服装や、外出時の食事、出前の時なども本人の好みに注文しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や就寝が少し遅くなっても、大相撲や野球中継の楽しみを中断させないなど、本人の希望に添って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護度が重くなため、本人の希望に合わせて服を選んだり、ショッピングに出かけたり出来なくなっても、その人らしいおしゃれが出来るよう支援します。		

ポテトタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事食や外食等ハレの食事だけでなく、日常の食事でも、旬の食物、色彩のある盛りつけを心がけています。食事はみんな一緒に楽しく、後片付けも食器拭きなどを手伝っています。	利用者は能力に応じて、後片付けやお盆拭きなどを手伝っている。職員が栄養士の助言を得ながら季節感や彩りに配慮した献立を作成して掲示し、職員も一緒に同じ食事を摂っている。利用者の誕生日には全員で外食に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、その方の体格に合わせた量を摂取していたが、栄養バランスを考えた献立になっていない。また、水分量は、1日の摂取量が確認できるよう表にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食、夕食後は声掛け、見守りで、必ず歯磨きを行い、就寝前には義歯を入れ歯洗浄剤に浸け清潔を保つようにしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレでの排泄を心がけ、その人に合わせて時間を決め、トイレに誘導します。ほとんどおむつを汚さずに過ごすよう支援しています。	トイレ誘導が必要な方は2名程度で、水分チェック表や介護記録により排泄のパターンを把握し、羞恥心に配慮しながら声かけを工夫している。必要に応じてリハビリパンツを利用しているが、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や散歩等の誘導。ファイバーの摂取や、ヤクルト、ジョアなどの乳酸菌飲料の摂取などで整腸に勤め、極力薬に頼らない排便を心がけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	見守り、介助の必要な人が多いため、曜日や時間帯を決めていますが、その方の体調、また要望があれば、それにとらわれず、入浴、シャワー浴、足浴、清拭などを行っています。	週4日の入浴日を設け、各利用者が概ね週2回の入浴を行っており、その他にも必要に応じてシャワー浴などを行っている。浴室は今年改装され、気持ちよく安全に入浴できるようになっている。拒否がある場合は、歌を歌いながら誘導するなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後はお昼寝される方、居室でテレビを見られる方、ホールで過ごされる方などそれぞれですが、無理強いせず、体を休められるよう声かけしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局による副作用などの情報は、全職員に確認してもらい、誤飲、飲み忘れ等がないよう管理を徹底しています。不明な点がある場合は主治医に指示を仰ぎます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴をたどる、歌や遊び、食べ物や手仕事、等々、それらが思い出せれば、張り合いや喜びのある日々が過ごせるのです。一つでも思い出せるよう努力します。		

ポテトタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段あまり乗ることのないバスや地下鉄に乗り、食事に出かけたりして喜ばれています。その動画をご家族の方にも見て頂き喜ばれています。	天候のよい日には毎日でもホーム裏の遊歩道や近くの公園、南沢神社などに散歩に出かけている。利用者と共にバスや地下鉄を使って外食に出かけることもある。年間行事では初詣や花見、町内会の運動会、大学のラベンダーコンサート、福祉会館での交流行事などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時等に、お小遣いの範囲内で好きな物を選び、ものの価値観やお金の大切さを実感してもらえよう支援しています。また、町内のお祭りでのお買い物も好評です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば、電話を掛けるお手伝いをし、電話が掛かってきた場合には取り次ぎをしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に、明るく見通しのいい落ち着いた空間になっています。行事の写真、みんなの作品、四季おりおりの飾りつけなどが展示され、季節感が感じられる様工夫されています。	共用空間は食堂を中心とした開放的な造りで、手作りの季節の装飾がふんだんにあり、ホーム便りも掲示されている。また、新聞や絵本などがさりげなく置かれ、家庭的である。温度、湿度なども調整され居心地よく過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテレビだけでなく、食堂でDVDを見たり、庭で歌を唄ったり、居室で二人でおしゃべりしたり。また、2階の居室はとて静かに過ごせます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が寂しくならないように、自分で書いた書道の作品や手作りカレンダーを飾ったり、本人や家族の写真を飾るなど、居心地良く暮らせるよう工夫されています。	居室は、利用者がタンスや鏡台、テレビなど馴染みの品物を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にもカレンダーや俳優の写真、利用者の作品など自由に飾り付けすることができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、階段など、動線となるところには手すりを設置し、転倒防止が図られています。2階の居室には、それなりの体力のある方が入所されており、食堂、居間との往復が、いい運動になっています。		

## 目標達成計画

事業所名 ポテタウン 南の沢

作成日：平成 25年 11月 7日

市町村受理日：平成 25年 11月 8日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	前年に引き続き、利用開始後に得られた情報や変化を内容に追加記入して内容を充実させていくことを期待したい。	常にADLまたは認知状態において変化がある。全て書き切れていない人に対して、積極的にスタッフが記入していく。	利用者の現在の状態を常に把握し、ケアプランに取り入れた援助を行う。	今年中
2	26	月例会では、各利用者の介護計画に関する意見について記録しているので、その記載内容を反映させながら、評価シートの記載方法を工夫していくことを期待したい。また、介護記録も介護計画を意識した記載方法となるように期待したい。	利用者のケアプランを一人一人介護記録の中に記入し、援助目標を確認していく。	介護記録、ホーム日誌、温度版、排泄チェックなど、利用者の記録を全て作り直し、ケアプランに反映させる。	11月末
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。